

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100435		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	すずらん大山田		
所在地	三重県桑名市大山田2丁目7番地11		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	平成28年2月6日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100435-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100435-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 12 月 2 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地で池のほとりに立地し、近くには公園もあり桜の頃には皆で花見を楽しむことができます。近隣から届く新鮮な野菜の献立は利用者様も「おいしい」と喜んでいただけます。職員は「やさしい心」と「やさしい手」で利用者様の生活を支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅が密集している環境でありながら静かで、近くに公園などの緑が多い。歩いて行ける所に大型家電店や、スーパー、コンビニ、様々な飲食店が多くあるので住宅地としては恵まれた環境である。施設は一軒家をデイサービスと一緒に使用しており、家庭的な雰囲気を感じる施設である。職員は施設長、管理者、調理する職員もベテランであり、限られた人数と時間でマンパワーを最大限発揮している。職員の対応も利用者の尊厳を大事にし、少しでも利用者のためになることをしようとしているのを感じる。2月に3名の職員の退職や移動に伴い3名の職員が採用された。管理者も7月で退職し新任の施設長と管理者となり、以前の調査で不明瞭な点も今回の調査で明瞭となった。新任の施設長、管理者を始め職員全員が重度化してきた利用者や高齢化した家族のために正直に最大限の思いやりのある努力をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさを重んじ、安心して生活がしていただけるよう「やさしい心」「やさしい手」で職員一同が実践している。	理念を分かり易く表現した「やさしい心」「やさしい手」は職員一人ひとりの思いやりで実践されており、穏やかな声掛けや温かい雰囲気のある対応をしている。施設内が穏やかで明るい時間で満たされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は住宅街にあるため、ほぼ毎日のように地域とのかかわりがあり、また自治会に入っているため、地域の様子も理解している。	施設の利用者の重度化と近隣住民の高齢化でお互いが触れ合う機会が少なくなってきたが、職員は春と秋に実施される清掃活動に参加したり、民生委員に困っていることを相談しながら地域住民との付き合いが無くならないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、事業所内で行っている事を提供し、地域の人々に向けて協力できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市役所、包括の方にも来ていただいているので、問題等がある場合も助言や意見をいただき、サービス向上に努めている。	家族代表、包括職員、民生委員、地域代表、管理者が参加して2ヶ月に1回開催している。施設の現況報告のみで参加者が会話した内容や貴重な情報を記録しなかった以前の会議録は、管理者が交代した9月以降の会議録では施設の現況報告、参加者より発言があった内容をしっかり記録してサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新申請の代行はもとより、機会あるごとに出向いて行ったり、電話をかけたりにして助言をいただいている。包括が主催する講習会にも参加している。	介護保険の更新申請の代行時や利用者の生活保護申請時、スプリンクラーの設置相談、包括センターからの利用者紹介等と行政とは普段から協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の勉強会を通して、よく理解しているが、車椅子からのずり落ち防止のため、ご家族に了解のもと抑制帯を使用している。	包括支援センター主催の虐待防止研修会に参加したり、職員同士で気づいたことを利用者を見守りながら話し合ったりしている。玄関の施錠はしていないが車椅子からの転倒防止のために抑制帯を家族了解のもとで使用している。また、2階の階段出入口の施錠を日中はしていないが、転落防止の為に夜間施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を日々新たにするため、会議を開き、職員間の意識を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修により、制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には十分な説明を心がけ、利用者様やご家族様に納得していただよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の意見や相談内容は丁寧に扱ひ、職員間で意見を共有している。又、おたよりにてこちらの思いもお知らせしている。	毎月、預かり金を持参する家族と会話するが、意見や要望は少ない。来訪が少ない家族には管理者から家族へ個別に手紙を出して利用者の状況報告、利用者の心情を代弁している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行われる、施設長会議に参加しており、その時の意見や情報は運営に反映されている。	管理者と職員同士が話し合う機会はあるが、話し合った内容が記録されてない。また、管理者を含めた職員と代表者との意見交換の場も無いので、職員からの意見や提案が反映しにくい状況である。	職員の退職からサービス低下を防ぐには施設の現状を本社が理解し、適正な職員確保が必要である。その為には客観的な考察や意見交換ができるベースが必要である。職員からの意見や利用者の日々の現状を記録し、本社と職員の相互理解の場ができる事を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員が働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。又、職員の資格所得のための支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各事業所との連携に努め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、利用者様と充分なお話をし、不安な事や要望を聞き取り、周りの皆さんになるべく早く溶け込めるよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をしていただいたり、ご家族様が抱えている不安や要望に耳を傾け、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ご家族の要望を聞き、優先すべき課題やサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員全体が持ち、尊敬の気持ちと思いやりの心で接するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、面会時や電話連絡時に本人の様子を伝え又ご家族からの要望を聞き、本人の情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様、ご家族様、共に高齢化のため面会も少なくなり、認知症が進みコミュニケーションもとれなくなり支援は難しい。	利用者の重度化で会話が難しかったり、職員の人数不足で支援が出来なかつたりしている。重度化した状態で他施設から入居した利用者の情報移管がしてもらえず、馴染みの人や場所が把握出来ないことで支援が出来ない事もある。そこで管理者から以前の施設や家族に手紙や電話で連絡しても情報が貰えないのが現状である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間等、解除が必要な利用者様を他の利用者様が気づかったり、助け合ったりしながら生活できるよう支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当なし。 今後、あった場合は必要に応じて、本人家族の意向に添えるよう相談支援を考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の重度化により、一人ひとりの思いや暮らし方の希望は聞き取れていない。	利用者の重度化によりコミュニケーションが取れなくなり、暮らし方の希望や意向は把握しにくい。理念の「やさしい心」「やさしい手」を意識して利用者が気兼ねなく暮らせる支援を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は事前に本人やご家族からこれまでの暮らし方やサービスの利用状況等の聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りにおいて、利用者の状況等、情報を共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が介護計画を把握し、日々の利用者のケアでの気づきを職員間で話し合いモニタリングをしている。	利用者はデイサービスの利用者と同じ居間兼食堂で日中過ごしており、デイサービスの管理者兼施設長が看護師であり日々のケアの心配は少ない。又、介護計画は家族と話し合っ作成しているが、職員間で話し合った記録が作成されていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別支援経過記録に日々の様子や職員間で情報を共有しながら計画の見直しに役だ立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの意見や思いをすべてとりあげる事は出来ないが、栄養価の高い食事に切り替えたり、かかりつけ医にとらわれず、その時の症状に合った病院への付き添いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる人形劇・大正琴・大型紙芝居等を行い、安全で豊かに豊かに暮らしていけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科的な健康管理は月1回の協力医の受診になるが、他の症状では主治医の先生の意見を聞きながら専門医での受診を受けている。	4週目の水曜日に協力医の訪問検診があり、利用者全員が受診している。往診が無いので突発的な症状や専門医には職員が同伴して受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師との連携に努め、緊急時や夜間の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを利用し情報を共有したり、お見舞いに行き病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と終末期に対する考えを話し合っている。又終末期を迎えた時には、家族や主治医と連絡を密にとり、法人内の看護師のいる施設への移動もある。	利用者の看取りは今までしておらず、今後も現状では出来ない状態である。終末期には同じグループ内の有料老人ホーム(サービス付き高齢者住宅)に移動させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送、家族への連絡かかかりつけ医の手順を職員全体で日頃から把握し対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者・職員全員で訓練を行っている。消防署員の指導による訓練や避難場所としての近隣の協力。又3日分の水・食料の備蓄等。	春と秋に火災想定と災害想定避難訓練を2回づつしている。消防署立会いも1回している。避難所に施設は指定されておらず北小学校が指定されているが、重度化で移動が難しいことを運営推進会議で話したところ、出席者で近所の民生委員が自宅に避難して構わないと承諾している。備蓄は3日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重とプライバシーを守るための勉強会を行いよく理解した上で声かけには十分注意して対応している。	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声掛けに特に注意している。トイレ誘導時に「ちょっと用事があるから、来て欲しい」と声掛けしたりしてる。同じフロアでデイサービス利用者と仲違いすることもあるので、どちらの肩も持たないように間にうまく入ってとりなしたりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすいような雰囲気作り、言葉がけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、体調に合わせてゆとりを持ったすごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や職員によるひげそり、整髪その他、定期的に訪問美容室の来所がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように季節ごとの行事食の提供、好物を尋ねてメニューに加えたりしている。テーブル拭きなどをお願いしている。	3食、デイサービスの利用者と食事している。食事を主に調理する職員がおり、嚥下を考慮した方にはミキサー食や粗刻み食にしたり、糖尿病の方には低カロリー食にしたり、腎臓が悪く高カリウムの野菜が食べられない利用者には「ゆでこぼし」の加熱処理を行って食事が提供されている。クリスマスや誕生日、お正月の特別食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分量が確保出来るよう利用者各々の状態を把握するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。 夜間、入れ歯預かりの方は、朝、本人に手渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	機能低下により、座位保持が出来ない方もいるが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ、誘導により自立に向けた支援を行っている。	利用者で一日中、オムツをしている方が2名、紙パンツと尿取りパットを使用し、尿意を感じてトイレに行く方が2人いる。なるべくトイレ排泄や自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、場合によっては医師の指示のもと緩下剤を服用している。水分摂取にも気配りしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調に合わせて入浴を楽しめるようにしている。個々の能力に合わせて、介助をしたり、ゆっくり話が出来たり、入浴が楽しみの一つになっている方も多い。	週3回、午前中の中の入浴だが、デイサービスの利用者10名の入浴も兼ねているので職員は重労働である。それでも入浴剤を使用したり、ゆっくり会話したりと利用者が楽しんで入浴出来るように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のため、ベッドの位置を工夫したり、寝具(タオルケット等)を持ってきていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情報は管理されており、職員は常時、確認できるようになっている。毎日の服薬セットは特定の職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの残存機能に合わせ、ご家族からお聞きしている情報等を読み返し、昔の事を話しかけたり、歌を唄ったり、ゆったりとした気分になっていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者・家族の高齢化のため、家族の方も協力が難しくなり、唯一春のお花見だけは皆さんに参加を呼びかけている。毎日の生活の中で「雪が降る」「桜が咲いた」など外部の事も思い出してもらえよう支援している。	利用者の高齢化と重度化、職員不足等で日常的な外出が困難な状況である。唯一、家族協力による第三公園での4月の花見が外出支援になってきてる。戸外に興味を薄れないように「雪が降る」「桜が咲いた」等の声掛けを絶えずして。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の預かり金は施設で管理させて頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて職員が取り次ぎをすることもあ		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理・整頓・清潔を保持し室内の温度・換気に配慮している。又、置物や飾り物で季節が感じられる。	ほとんどの利用者が1日過ごす1階のリビングは仕切られておらず、デイサービスの利用者と共用である。採光は良くされており、清潔で快適な温度に保たれている。一軒家なので家庭的な空間と雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが交流の場になっており、自由に過ごすことが出来るような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用していた家具や寝具などを持ってきていただいたり、ご家族からのプレゼントでお部屋を飾っている方もある。	居室は2階なので階段の壁に車椅子用の昇降機を設置している。広い空間と大きなクロークやエアコンが備わっている。ベッドの高さも考慮して低めにしている。安全面から各居室の窓の外側全体をアルミの格子が覆っている。各居室に地デジチューナーが無いため視聴できない旧式小型テレビが小卓に置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで安全が確保されている。 利用者が危険のない生活が送れるように職員は配慮している。		